



**①孝子畠中好平之碑(こうしはたなかこうへいのひ)**  
 畠中好平は黒田藩内三孝子の一人に数えられる大変な親孝行者でした。天保7年(1836)黒田藩より褒賞と田地二反、好平一生の間の年貢と懲役の免除を賜り、安政5年(1858)藩主黒田長溥(くろだながひろ)公によって箱崎御茶屋に召し出され直接お褒めの言葉を賜りました。



**②国道200号・遠賀川河川敷(おんががわかせんじき)**  
 旧長崎街道は幸袋から遠賀川河川敷へと続きますが、途中国道200号と合流し、目尾(しゃかのお)に入ったところから⑤「鯰田渡し」交差点付近まで道は消失しています。



**③鯰田大橋(なまずたおおはし)**  
 かつては鯰田大橋付近に鯰田渡しがありました。大正6年(1917)1月25日の渡し舟が転覆する悲惨な事故をきっかけに遠賀川に木橋が架設される事になりました。遠賀川改修工事完工までは渡し舟は重要な交通機関でした。現在、渡しの面影はありませんが、鯰田大橋から国道200号線と交差する場所の信号機やバス停に「鯰田渡し」と名前が残っています。



**④JR鯰田駅(なまずたえき)旧駅舎**  
 九州旅客鉄道(JR九州)筑豊本線(福北ゆたか線)の駅です。かつては当駅から三菱鉱業(現在の三菱マテリアル)鯰田炭鉱への引き込み線があり、鯰田炭鉱から産出される石炭を運び出す拠点でした。駅舎は築60年以上の木造で、炭鉱全盛期から残る数少ない建物でしたが、シロアリの被害が激しく2013年3月に取り壊されることになりました。



**⑥～⑩国道200号から遠賀川河川敷へ**  
 鯰田渡しの信号機の側に地藏堂があります。旧長崎街道は国道200号線を挟んで向かい側から細い路地に入っていきます。目尾(しゃかのお)小学校の裏を通り再び遠賀川河川敷へ出てJR筑豊本線の高架下を通り住宅地の方へ進みます。



**⑪目尾の地藏堂**  
 レンガ造りの地藏堂で「高聖奥の院」と呼ばれているようです。



**⑫～⑮目尾の旧街道沿い(しゃかのおのきゅうかいどうぞい)**  
 旧長崎街道は地藏堂の通りから⑬薙野公民分館の前を通り、⑭目尾交差点で国道200号線を渡り⑮第二目尾公民館の前を通る路地に入ります。



**⑯穂波郡・鞍手郡の群境石(ほなみぐん・くらてぐんのぐんきょうせき)**  
 飯塚市目尾(穂波郡の端なので穂波端と呼ばれる)と小竹町が隣接する場所に旧穂波郡と鞍手郡の郡境石があります。右面に「従是北鞍手郡」と書かれています。勝野村の村民によって建てられました。小竹の町筋はここから始まり現役場付近まで続いています。



**⑰峰畑地藏(みねはたじぞう)**  
 郡境石から旧街道を外れ線路を渡った少し先に石炭地藏とも呼ばれている峰畑地藏があります。



**⑱遠賀川の川土手の名残**  
 元和年間(1615～1623)黒田長政により遠賀川に大規模な堤防がつくられ、街道に沿って南北百十間ほどに町立てがなされました。現在、町裏にあった川は東に付け替えられその跡は現国道200号線と住宅地になっていますが、旧街道沿いの草むらの中にかつての川土手の名残があります。



**⑲小竹地藏尊(こたけじぞうそん)**  
 国道200号線小竹上町交差点より約40m程西よりの場所、旧長崎街道沿いにあります。庚申尊天や水神様である罔象女命(みつはのめのみこと)や涅槃像が祀られています。ほとんどの涅槃像は右手を枕とするか、もしくは頭を支えるお姿ですが、この涅槃像は逆向きで、非常に珍しい涅槃像だそうです。



**⑳小休所(龍徳屋)跡(こやすみどころあと)**  
 龍徳屋酒店の前に「小休所跡」の碑があります。正徳3年(1713)長藪騒動が起きたとき、その被害者の看護をしたのがこの龍徳屋でした。事件は街道に大きな衝撃をあたえ、同時に薩摩藩士の武勇が賞賛されました。島津家はこれを吉例として、以降龍徳屋を小休処としました。のち肥前鍋島藩などもこれになったため、事件は小竹の町が宿駅として発展する契機になったそうです。



**㉑彦穂神社(ひこほじんじゃ)**  
 本社は寛喜元年(1229)鞍手郡磯光村天照宮の神領地であった為、天照宮大宮司幸眼が当村の神屋という所に神社を勧請したのが始まりです。元亨年中(1321～1324)火災により焼失し、正中年間(1324～1326)今の地に社殿を造営しています。本社は当初狩子八幡宮と称し、その後、狩子大明神、後、彦穂神社と改称している様です。いずれにしても、1229年(鎌倉時代)より口原地区の守り神として今日に至っています。



**㉒小竹の貴船神社(こたけのきふねじんじゃ)**  
 神殿や拝殿は今から約200年前に建立された神社といわれています。享和年間(1801～1804)の社で家内安全・交通安全・商売繁盛が祈願されてきました。疫病退散などを願い約200年続くという小竹祇園祭「小竹祇園山笠」は二年ごとに開催されています。山笠は過去には昇山であった形態を継承しながら曳山となっています。

